

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、3 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立立川国際中等教育学校

1

次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

思考を深めるには、まず文章にしてみるとよいと言われる。それは
 *一理ある。私は、心理学者として、カウンセリングもしてきたが、カ
 ウンセリングが効果をもつのも、じっくり耳を傾けてくれる聴き手を
 前に、思い浮かぶことを語っていくうちに気づきを得られ、これまでと
 違った構図のもとに自分の経験や思いを検討できるようになるからで
 ある。

それと同様に、日記を綴るように自分の思うことを書いていくこと
 で気づきを得られる。自分の内面に渦巻くモヤモヤした思いを文章にす
 ることで、心の中が整理されていく。言葉にすることというのは、言葉を
 用いてモヤモヤした頭の中を整理することに等しい。

私たちは、自分の心の中で経験していることをそのまま取り出して理
 解することはできない。経験そのものが言語構造をもっているわけでは
 ないからだ。

何だかわからないけれども、心の中がざわついて落ち着かない。なぜ
 かイライラしてしょうがない。何だろう、この物足りなさは。何だろう、
 この焦っている感じは。そんなふうに、言葉にならない衝動的なもの、
 感情的なものが、自分の中に渦巻いているのを感じることがある。

そのようなモヤモヤした心の内をだれかに伝えるには、それを言葉で

すくい取らなければならない。言葉にしない限り、そうした経験につい
 て人に語るができない。自分の思いを書いたり語ったりすることが
 大事だというのは、それが自分の過去の経験や現在進行中の経験を整理
 することにつながるからだ。

自分の内面で起っていることを書いたり語ったりすることは、まだ
 意味をもたない解釈以前の経験に対して、書いたり語ったりすること
 のできる意味を与えていくことだと言ってよい。それによって経験が
 整理されていく。

その際、語彙が乏しいと、内面をうまく言語化することができず、
 なかなか頭の中が整理できない。つまり、思考が深まらない。内面の
 モヤモヤを言語化して思考を深めるには、語彙の豊かさが求められる。
 そうなると、本を読まない者が増えているという最近の風潮は、危機
 的と言ってよいだろう。

思考を深めるのに読書が役立つというのは、語彙が豊かになるとい
 意味だけではない。自分自身を見つめる機会になるという意味もある。

本を読むことを情報収集と位置づけている人は、自分のしている
 ことに今すぐ直接役立つ情報のみを求めて実用書ばかりを読む傾向
 *がある。実学志向が強まっている今どきの学生にもそうした傾向が
 みられる。だが、それでは思考は深まっていかない。

本を読むことの意味は、けっして情報収集のためというだけでは
 ない。本を読んでいると、自分の記憶の中に眠っているさまざまな素材

が活性化され、ふだん意識していなかった記憶の断片が浮かび上がり、それをきっかけにいろいろなことが連想によって引き出されてくる。「そういえば、あんなことがあった」「こういう思いになったことがある気がする」「同じようなことを考えたことがあったなあ」「あれはいつのことだったかなあ」「自分も似たような状況に陥ったことがあったな」などといった思いが頭の中を駆けめぐる。

このように、本を読むことは、自分を見つめ直すきっかけになる。本を読むことで、日頃忘れていた自分と出会うことができる。書かれている文章に刺激されて、長らく意識にのぼることがなかったいろんな時期の自分に触れることができる。

本を読まずにいと、そうした自分に触れる機会をもつことがないまま日常が過ぎていき、自分を見失うことになってしまふ。

本を読むことには、自分自身に出会うという効用のみならず、異質な知識やものの見方・考え方に会おうという効用もある。

ネットの世界では、何かを検索すると、関連する情報が自動的に選別されて出てくるし、使用者の履歴をもとに関心をもちそうな情報を選び出されて表示される。また、興味のある見出ししかクリックしないため、出会う情報が非常に偏ったものになってしまう。自分の考えに対する反証になるような情報にはあえて目を向けようとしなない。興味のない情報や意見にはわざわざ目を向けることがない。

そのため、異質なものの見方・考え方に触れる機会がなく、自分の

ものの見方・考え方に凝り固まってしまいがちだ。ネット上で喧嘩のよ
うな誹謗中傷が目立つのも、自分と違うものの見方・考え方を理解
できないし、理解しようという心構えもないからだろう。いわゆる
自己中心性からの脱却ができていない。

心の世界を広げ、異質な他者に対する寛容な態度を身につけると
いう意味でも、読書によっていろんなものの見方・考え方に触れるのは
大切なことである。

さらには、いろんな視点を自分の中に取り込むことで、物事を多角
的にみることができ、深くじっくりと考えることができるようになる。

そうした読書の効用を活かすには、関心の幅を狭めずに、あえて
いろんな領域の本を読むように心がけるのがよい。その意味でも、
家庭や学校では、さまざまな領域の本を揃える工夫が必要である。

(榎本博明「読書をする子は〇〇がすこい」による)

〔注〕 一理 —— 考えによっては、なるほどと思えるところ。

カウンセリング —— なやみをもつ人に対し、それを解決するため
の助けになる言葉をあたえる活動。

綴る —— 文や詩を作る。

言語構造 —— ここでは、「言葉としての形」のこと。

衝動的 —— 突然あることをしたくなって、理性ではどう
にもならないような心の動き。

語彙——ここでは、「その人の知っている語の全体」のこと。

傾向——ものごとがある方向にかたむいている様子。

実学志向——現実の生活に役立つ学問に心がひかれて目指そうとすること。

履歴——現在までの記録。

反証——反対であることを示す証拠。

誹謗中傷——不当に人のことを悪く言つて名誉を傷つけること。

脱却——前の様子や状態からぬけだすこと。

寛容——心が広く、よく受け入れること。

〔問題1〕 「自分の思いを書いたり語ったりすることが大事だ」と

あるが、筆者がどのように言うのは、どのように考えているからですか。三十五字以上四十五字以内で説明しなさい。

〔問題2〕 「自分自身に出会う」とはどういうことですか。七十字

以上八十字以内で説明しなさい。

〔問題3〕 「そうした読書の効用を活かすには、関心の幅を狭めず

に、あえていろんな領域の本を読むように心がけるのがよい」とあるが、それはなぜだと説明していますか。また、このような読書に対する筆者の考えは、本校の学校生活のどのような場面で生かせると考えますか。読書以外のことについて具体的にあげながら、三百六十字以上四百字以内で述べなさい。

《注意》

段落をかえたときの残りのますめは字数として数えます。

ただし、〔問題1〕・〔問題2〕は、一ますめから書き、段落をかえてはいけません。

、や。や「なども、それぞれ字数に数えます。